

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172500191		
法人名	特定非営利活動法人ロータス会		
事業所名	グループホーム延寿園(1F 延ユニット)		
所在地	北海道余市郡余市町黒川町12丁目3番地 ロータスビル		
自己評価作成日	令和元年12月19日	評価結果市町村受理日	令和2年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=tr&JigyosyoCd=0172500191-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和2年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>事業所の3つの基本理念をふまえ消費税UPになるも「経済的不安の少ないグループホームにする」「穏やかで楽しい尊厳のある生活を保障する」にある様に施設の屋上での体操や行事(ジンギスカンなど)を行い恵まれた、新鮮な食材を得、やすい地域性の利点を活かして家族的食事を提供し「その人らしい当たり前の生活を保障する」を基に入居者様に楽しく1日1日共同生活を過ごして頂けるようサービスを提供しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所はJR余市駅に近く、周辺にはホームセンターやドラッグストア、スーパー等の商店などがあり、近くには協力医の勤医協余市診療所があって生活の便に恵まれた環境にある。鉄筋コンクリート造り3階建てで1・2階がグループホームで、1階の一部にはデイサービスが併設され、3階には高齢者賃貸マンションがある。事業所の行事や避難訓練などは各事業所と合同で行う等、運営の安心安全に努めている。また、隣接の母体法人系の誠諦寺がNPO法人ロータス会を立ち上げ、「家庭的で、経済的負担の少ないグループホーム」などを理念に掲げ事業所の運営をサポートしている。地域のソーラン祭りやロータス会主催の盆踊りなどの行事に利用者や地域住民が参加して交流を深めている。敬老の日などにはボランティアが来訪して踊り、ゲームなどで交流し利用者の楽しさを提供している。介護職員初任者研修生受け入れ、介護教室を開催して地域に貢献している。自然災害時に、施設の一時避難場所として町内会に提案しながら、地域との密着の強化に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員もいる為毎朝の申し送り時に理念の3項目の音読を行っている。	事業所理念は事業所入口に掲示し、会議では理念を唱和しながら日々のケアに結び付けるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	TOTO主催の盆踊りに共催として地域住民や職員の踊りや太鼓の参加、利用者の見物等楽しみの一つになっている。	法人主催の盆踊りには地域住民も多数参加し、利用者との交流を深めている。子ども神輿が来訪したりサッカーくじ主催の地域のお祭りに参加したり利用者は楽しみの一つとなっている。また、ボランティアの来訪で利用者との交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	余市祭りの見学、子供神輿への拍手、お礼等も入居者様が行っており、当所で介護教室を開催したり貢献しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を行い、行事の報告や家族様の参加得られ、事故報告等の状況説明への意見、助言を頂いたり、参加できない家族には、送付し、報告しています。	町職員や地域住民、民生委員、家族等が参加する会議を年6回開催している。会議では運営報告や事故報告等を報告し、参加者より意見や助言を得て運営に反映させている。会議に参加できない家族には議事録を送付し理解を得ている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に町福祉課の担当の出席をお願いし発表の場をもうけ、助言や情報を頂いている。	北後志連絡会やグループホーム連絡協議会に参加し、行政の情報や他の事業所の現状を得ながら運営に反映させている。また、町職員に運営や福祉情報等の情報や助言を得て運営に活かしている。外部研修は年3～4回参加し、得た情報は職員で共有している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として、宣言を掲げ日々実践している。	内部研修として身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し「拘束の5原則」等の研修を実施している。グループホーム連絡協議会やSOSネットワークに参加しながら、身体拘束について学び、その結果を職員で共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員同士慣れあいにならず個々に入居者様に目配り、気配りを行っている。			

グループホーム延寿園(1F 延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を通し、一部の職員は学ぶ機会を設けているが、他の職員は学ぶ機会が少なく活用支援はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の重要事項の説明を始め、入居契約時には充分説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている他、運営推進会議を家族代表をお願いし意見や要望を伺っている。	日々のケアで利用者からの意見や要望を聞くよう努め、家族来訪時や電話にて意見や要望を聞いている。年2回の家族会に全職員も参加しながら、出された意見や要望を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員に対し管理者や代表者は年3回ほど会議を実施し意見交換を行っている。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努めるとともに、職員会議等で意見や要望を聞いている。年3回程の事業所全体で実施する合同会議で、意見や要望を聞いて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態を把握し意欲をもって働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修会や講演会等に参加し意識向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内及び周辺地域内の事務所で構成されるグループホーム連絡協議会に参加し情報の交換を行っている。		

グループホーム延寿園(1F 延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その都度 ご本人に聞いてできる範囲で努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等ご家族様と話し希望、要望お聞きできる範囲で努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度又は面会時に話し確認するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、出来ないことを確認し、出来ることをして頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時又は手紙、電話にて報告しお話しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等できる範囲で支援しています。 又は思い出話等お聞きし等支援しています。	理美容院に職員同行で出向き、馴染みの関係継続を支援している。高齢者賃貸マンション住民やデイサービス利用者とカラオケ大会を開催する等、馴染みの関係が継続できるよう支援している。また、近郊地域の利用者が多く、法事や墓参り等に 家族同行で行くなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク(行事)に参加して頂き入居者様同士楽しく会話等職員が間に入り孤立にならないようしています。		

グループホーム延寿園(1F 延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が他の施設・病院等に移った後でも、先方の要望があれば積極的に情報提供に応じ、ご本人の生活を支援するとともに、ご家族にも必要に応じお手紙等で近況を伺うなど、関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前はもとより、入居後も定期的にご本人の意向を伺うとともに普段の生活の様子、ご家族からの情報を加味して随時検討を行っている。	日常的に利用者の思いや要望を聞いて、その都度希望する過ごし方を支えている。困難な場合は家族に相談しながら生活歴をひもとき、検討しながら定期的に基本情報を更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、ケアマネジャー等から伺える範囲内でこれまでの生活歴や環境、サービス利用の状況をうかがいグループホームでの介護計画に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活歴、身体状況等を把握し、また実際の生活の様子も観察しながら、職員同士の意見集約を経て共通認識として随時把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人の生活に対する意向・ニーズをうかがった上で職員・看護師等とケアカンファレンスの場で意見を出し合い介護計画の原案を作成、ご本人、ご家族に説明し再度意見をうかがった上で同意を頂いている。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望、職員の意見を取り入れて計画作成担当者が短期4ヶ月、長期1年で見直して介護計画を作成し、家族の同意を得ている。利用者の状況の変化に応じて、随時介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録に日々の生活の様子を記録し、また重要と思われる項目はさらに日報等に記載して職員間の迅速な情報共有に勤め、支援経過を作成しモニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の親族が通う同一建物内のデイサービスに自由に訪問する機会を作ったり、通院や買い物等の外出支援に訪問介護の保険外サービスを利用したり、法人主催・共済のイベントに利用者を招待したりなど、同一法人内の他事業所との連携を活かしたサービス提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のお祭りを見物したり子ども神輿にご祝儀を配って交流を行い、また地域の桜の名所に花見に出かけたり、公共施設の農村活性化センターでりんごの試食やジュースを作ったりなどの活用を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に当たって、グループホームの協力医療機関の説明と共に従来のかかりつけ医への受診を希望するか確認し、ご家族による通院付き添いが困難な場合は職員が付き添い通院助助を行うよう対応し、希望に添えるよう配慮している。	利用者及び家族が希望するかかりつけ医を受診している。受診時についてはできる限り家族が同行し、出来ない場合は職員が付き添い受診することもあり、家族に受診報告し、適切な医療に結びつけている。協力医は月1回の定期往診があり、利用者の健康管理を支援している。緊急時も含め24時間の医療体制を取っている。	

グループホーム延寿園(1F 延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月ごとのケアカンファレンスや日々の申し送りには看護職員も参加し情報の共有に努めると同時に、気になる事柄はその都度看護職員に確認するよう心がけている。また、休日・夜間でもオンコール体制をとり、看護職員に連絡し指示等を仰ぐ体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報をフェースシート等にて医療機関に提供すると共に、ご家族向けの病状説明などにも極力職員が参加し情報の共有に努めているほか、地域の医療・介護職の協議会や会合などにも積極的に参加し、関係者との連携に力を入れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の時点から、当グループホームの重度化への指針を説明し、契約時に再度確認を行い終末期医療に対する意図を確認するとともに、他事業所や施設、病院などと常に情報交換を行い、利用者のニーズに可能な限り対応できるよう努めている。	重度化した場合の対応については入居時に同意を得ている。看取りはしていないが、重度化した場合は本人や家族、医療関係者と連携し、方針を共有して最大限の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講習に職員を派遣したり、社内研修などで情報の共有を行うなどの対応を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し地域住民にも参加をお願いしたり、災害時避難マニュアルを整備し対応を行っている。	事業所建物全体(デイサービスと高齢者賃貸マンションが入居)での合同避難訓練を実施している。実施は年2回(昼夜想定)消防署立ち合いの上行われている。訓練では地域住民等が参加しており、地域の災害時には事業所を一時避難場所としても検討されている。	地域の災害時に一時避難場所としての役割を叶えるためにも備蓄の充実と、事業の防災マニュアルに付随して一時避難場所としての対応マニュアルを整備する事を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地方という地域性も考慮し、親しみやすい環境に配慮しつつも、人生の先輩という敬意を常に持ち、なれなれしくならないよう心がけている。また、入浴や排泄等の援助は特に、個人の尊厳に配慮した対応を心がけている。	事業所理念は「穏やかで尊厳のある生活」を謳っており、日々のケアでそれを踏まえた実践を行っている。利用者の人格を尊重し、日々の言葉遣い等に注意しながらケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分で選択・判断可能なものに関しては、極力分かりやすく要点をまとめて提案し、ご本人の意思を確認するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の食事にかかる時間に合わせ、その方の食事提供時間を前倒ししてゆっくり食べていただいたり、ご本人の体調や希望に合わせて入浴等の予定を随時入れ替えたりするなどの対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの服を把握しご家族が購入される際に情報提供を行ったり、行きつけの美容院に通えるよう外出支援を行ったり、また毎朝化粧するのが日課の利用者にはご家族の協力を得て鏡台や化粧道具をそろえていただくなどの対応を行っている。		

グループホーム延寿園(1F 延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや野菜の皮むきなどを職員と一緒にしており、昼食・夕食と職員と一緒に食事をしている。	母体法人がメニューを作り、食材は外部から納入されて職員が利用者と一緒に調理などを行いながら食事を楽しんでいる。利用者の能力にあわせて前処理から調理まで手伝ったりしている。木曜のみパン食にして食事の形態を変えながら食事を楽しめるような支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の現病歴などに応じて食事の量を調節したり、食べやすさも工夫し、水分も調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、介助にて口腔ケアを行っている。できる限りご本人自ら行っていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導しなるべくトイレでの排泄支援をしている。	チェック表で利用者それぞれの排泄パターンを把握し、時間間隔や様子観察などそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導でトイレでの自立排泄を支援している。衛生用品は利用者の体調や状況に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排便状況を把握し、必要に応じて看護師、医師に相談し、服薬などによる調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は設定しているが、ご本人の体調や外出などの都合により、入浴日や時間を調整して対応している。	週2回で午後に基本として入浴支援をしている。入浴を拒む利用者は少ないが、時間をずらしたり曜日を変更するなどの工夫をしている。体調等によってはシャワー浴、清拭にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態を見ながら服薬などして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に服薬一覧表がファイルされており、職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のテレビ・ビデオ鑑賞やお誕生日会、ドライブなどのレクリエーションを考えて入居者様に楽しんで頂けるように取り組んでいる。		

グループホーム延寿園(1F 延ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力を得て、ご本人様の希望に沿うよう支援を行っている。また、事業所でのレクリエーションとしては、体調や天候等に配慮しながらドライブ等の外出の機会を作っている。	冬期間以外は天気の良い日には散歩や近くのスーパー等に出かけたりしている。ドライブで桜の花見や紅葉、ブドウ狩りなどに出かける等、出来るだけ外部の空気や気分転換を図れるよう外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所にて全入居者様の小口現金管理を行っているが、入居者様が小口の現金をご自分で所持し、買物等ができるよう支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より希望があった際には電話をかけられる様支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースでは、温度や湿度の管理に配慮した季節ごとの装飾やレクリエーション等で撮影した写真を飾り、季節の生花等も置いたりして居心地の良い食う感づくりを工夫している。	共用空間は広く、居間のソファーなどで利用者は日中の大半を過ごしている。居間等に季節感ある飾りつけと行事の写真が掲示され、明るく居心地の良い雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が食事をされたり、談笑やTVを見られたり、レクリエーション等を楽しまれたりと思いい思いに過せるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様らしい居心地の良い過ごしやすい居住空間になるよう馴染みの家具を置いたりご家族等の思い出の写真を貼ったりとご家族に協力頂き支援している。	できるだけ自宅と同じような環境にするため馴染みの家具や小物を置いたり、家族の写真や手作り品を飾りながら利用者が落ち着く空間づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方にも安全かつ安心して歩行していただけるよう各所に手すりを配置しており、トイレ等にも張り紙を貼るなど工夫をしている。		